

獨協医科大学 附属看護専門学校 同窓会

杏の会

第1号
創刊

同窓生の絆と和

同窓会長 豊田 省子

獨協医科大学附属看護専門学校創立20周年、この大きな節目でありますこの年に、本校同窓会が発足致しましたことをとても嬉しくまた意義深いことと思っております。



昭和49年4月の第一回入学式では、関湊理事長をはじめ、石橋長英学長、磯田仙三郎学院長より暖かいお言葉をいただき、獨協の将来の担い手としての大きな希望を本校に託されていることを感じたものでした。その3ヶ月後、大学病院は地域の人々の大きな期待を背負って開院致しました。前日には、本当に明日患者が訪れるのかと不安にさえ思ったものでした。

あれから20年の月日が流れ、人間でいえば成人を迎えたこととなります。その間1458名の卒業生を産み出し、獨協を中心に全国で、看護婦・保健婦・助産婦・看護教員として活躍しており、その地位はゆるぎないものとなっております。今後、ますます同窓生の絆が深まり、大きな親睦の和となり、母校の発展に微力ながら貢献できることを願って挨拶にかえさせていただきます。

「杏の会」創刊に寄せて

名誉学長 磯田仙三郎

獨協医科大学附属看護専門学校同窓会がいよいよ今春創立されて“杏の会”と名付けられ創刊号の発刊に至ったことを心からお慶び申し上げます。



顧みれば、本校が獨協医科大学附属高等看護学院として発足したのは獨協医科大学病院開設の昭和49年で、昭和58年に文部省の指令に従って“看護専門学校”と改名して現在に至りました。第1回の卒業生を送り出したのは昭和52年（1977年）で今では卒業生総数2000名を超える日も間近い今日、待望の同窓会が設立されたのはお目出度たく、会名が故事を偲ばせる杏の会とはよい思い付きで賛意の拍手を送ります。

思うに高齢化の現代日本に於いては老病者の看護介助を志す有情の人々が熱望されているのは周知です。病者の為に先達となって生涯をその道に捧げたフローレンスナイチンゲールに感動仰慕して、学習と実践に努めて看護介助に巧みな杏の会員の活躍を社会は切望しています。何卒同志親睦のもとプライドを堅持して世につくすよう切に祈ります。（1993年満97歳老翁）

愈々ですね、同窓会

学校長 馬場廣太郎

獨協医科大学附属看護専門学校同窓会発足、誠に御目出度うございます。高等看護学院としての開校20周年を迎えんとするこの時に始めて同窓会が組織されたこととなります。既に存在する会に入会するのは容易いことですが、長年の懸案を解決して、設立を実現するには大変なエネルギーが必要だった筈です。まずは、御努力を厭わなかった関係諸氏に心から敬意を表する次第です。

“生涯一看護婦”たり得ない状況を未だに作り出す社会には、山積みする問題があります。現状では個人の努力のみが解決手段です。その支援が同窓会で出来れば最高です。でも肩肘張らず、同窓生が集うところから始めて下さい。御発展をお祈り致します。

同窓会誌創刊に寄せて

教務主事 早田 一子

同窓生の皆様、同窓会の発足誠におめでとうございます。学校に勤務して以来同窓会がないことに寂しい思いを感じておりましたがやっとこれで一人前になれるかと嬉しく思います。役員の方々のご苦勞、ご努力に敬意を表したいと思います。名簿を見ていると、一人一人の顔やできごとが懐かしく思い出されると共に、学校で一番古い人間になっている自分に独り苦笑してしまいます。これからも学校関係者として貴会の発展に微力ながら協力をしていきたいと思っています。20年、人間でいえば成人式を迎えた記念すべき年です。これからは同窓会の活発な活動が会員同士の連帯感を強くする充実したものとして発展していられることを願っております。



同窓会創立によせて

前学校長 奥田 千秋

昭和63年4月に校長に赴任して第一に、これではいけないと感じました一つに同窓会の問題がありました。

「学校」であり、しかも既に1100名を超える卒業生を有する本校に、同窓会が存在しなかった事が私には不思議でなりませんでした。私など獨協中学を卒業して既に47年余になりますが、その間同窓会のお陰で多くの先輩・後輩の方々と親交を結ぶことが出来、有意義な人生を過ごせたと、会の大切さを感じておりましたので、早速本校卒の教員に設立に努力するようお願いした次第です。それからの5年にわたる熱意が実り、本年6月26日に第一回設立総会が開催され、ここに名実ともに同窓会が創立されました事は、誰よりも嬉しく思いますと共に、心より今後の発展を祈念いたします。



会誌の創刊によせて

事務長 小湊 郁夫

会誌創刊誠にお目出度うございます。看護専門学校同窓会発会から今日の会員名簿ならびに会誌の創刊に至るまでの会長をはじめとする役員の皆様方の努力はまさに称賛されるべきものであり、敬服いたします。

さて、実績のある看護学校に、同窓会が無いのは寂しいからぜひ作るべきであるとの声は、私が学校に係わりをもった平成3年度頃から盛んに耳にいたしました。その後、逐次機も熟し、設立準備の方々も決まって、まさに献身のご努力によって今日に至りました。私共事務担当としましても心よりお祝いをいたすと共に、できる範囲でご協力いたすことにやぶさかではございません。

重ねて、同窓会の今後の発展、繁栄を祈念いたしまして創刊のお祝いいたします。



第1回同窓会総会 並びに懇親会行われる

同窓会事務局

去る6月26日(土)、多くの皆様方のご協力を頂き、第1回同窓会総会を無事開催することができました。あいにくの小雨でしたが75名の出席がありました。

本年度の活動方針として同窓会の運営を軌道にのせること、事業としては名簿・会誌の作成発行を計画しております。

引き続き行われました懇親会では、懐かしい顔ぶれによる楽しい歓談のひとつときを持つことができました。

今後とも、皆様方の一層のご指導とご協力を、よろしくお願い申し上げます。



平成5年度役員は、以下の通りです。

- 会長：豊田 省子 (I部1回生)
- 副会長：松本 規子 (I部2回生)
- 事務局長：南條 珠江 (I部2回生)
- 総務：北澤 和子 (I部4回生)
- 小杉 京子 (I部8回生)
- 刀川由里子 (I部14回生)
- 会計：松澤 里美 (I部11回生)
- 柏倉有美子 (I部14回生)
- 会計監事：大前 旬子 (I部3回生)
- 相馬 和子 (II部3回生)
- 運営委員：各学年毎若干名、計36名

卒業生の記念品

第1回生 真壁美智子 (旧姓佐藤)

今でこそ『杏』という言葉に格別の意味合いも感じませんが、戴帽式を終え、これから白衣の天使として飛び立とうとしていた乙女達には『杏』は特別な響きを持っていたに違いありません。



卒業式を控え「記念品はどんな物に」という話があった時、誰からともなく「杏の木」という声があがりました。杏の花の薄紅の淡いイメージと白衣の天使の清楚さが重なり合ったようです。又、「杏」は花が咲き終わった後、大きな実を付けます。私達も将来、看護婦という大きな実になりたい、そんな思いを密かに胸に秘めていたのです。

皆の思いがひとつになり『杏の苗木』を記念樹として残し、後輩たちに大きく育ててほしいと願いを込めて贈りました。

会費納入のお願い

平成5年10月31日現在、同窓会会員は1458名で、そのうち会費納入者は761名です。未納の方！同窓会総会・名簿・会誌作成等の為にも、是非納入をお願い致します。

支払い方法は、名簿の巻末に綴じ込んである振り込み用紙で納入をお願い致します。

獨協今昔物語

20周年を迎え、病院周辺の風景を比べてみました。昭和47年当時はこんなに小さかった銀杏の木も、今では大きな実をつけるりっぱな並木となりました。



昭和47年撮影
—現在の写真を次ページに掲載—

卒業生の記念品

第2回生 仁戸部富恵（旧姓伴）

2回生の卒業記念品にまつわるエピソードは？と問われて、はて何を贈ったか考えてしまった。看護学校のフロア正面の一面鏡と聞いても思い出せない、そんな昔の話になってしまったのである。15年とは短いようで長い、女性の一大転機がなされてしまう年月なのである。

鏡は自分の姿を、その日その日を、ありのまま写しだすものである。しかしその反面、鏡には今日の気分がブルーでも、白衣を着た自分を見ると、しゃきっとした自分に一変してしまう、そんな魔力もある。

女性として看護婦として、自分をありのまま写しだす鏡を見て、仕事に家事に精出す毎日である。

求む！おもしろ企画・情報

年1回発行、「杏の会」会誌にあなたの考えたおもしろ企画・会員に伝えたい情報、例えばサークル活動のPR等を掲載してみませんか？

会誌作成委員会では、皆様のお便りを心からお待ちしています。

成人式を迎えた銀杏並木



本学の理事長であられました関 湊様、清水文彦様、学長であられました石橋長英様におかれましては、御存命であれば、本会設立のことをさぞお喜びいただけることと思います。改めて、同窓会会員一同心からお悔み申し上げます。

会員名簿ができたよ！

事務局

待ちに待った同窓会会員名簿が、準備開始から1年半かかり、やっと完成致しました。名簿作成委員会を中心に、運営委員、会員の皆様のご協力に深く感謝致します。この名簿を会員間の交流やクラス会等にご活用下さい。また住所変更、改姓の際は、名簿巻末の葉書で事務局へお知らせ下さい。

編集後記

同窓会設立を祝って、名誉会員並びに特別会員の方々より、お祝いのお便りやお心づけを頂きました。さらに、今回の記念すべき第一回同窓会誌の発刊にあたり、題字は、初代学院長である磯田仙三郎先生にお書き頂くことができました。また、ご執筆頂きました方々に、紙上をお借りして厚くお礼申し上げます。

今後も、なつかしい・おもしろい企画を満載し皆様が首を長くしてお待ち頂ける会誌にしたいと思います。会誌に関する情報やお問い合わせは、同窓会事務局会誌作成委員会までお寄せ下さい。

同窓会会誌「杏の会」創刊号1号

発行年月日 平成6年3月24日

発行 附属看護専門学校同窓会事務局

発行責任者 事務局長 南條 珠江

編集 会誌作成委員会

〒321-02 栃木県下都賀郡壬生町北小林880

☎ 0282-87-2244

印刷 株式会社松井ピ・テ・オ・印刷